

# 災害支援等の3者協定

## 県、和遊協、シビックフォース



左から和遊協の金理事長、協定書を手にする岸本知事、シビックフォースの根木代表理事

可能。トイレや女性の着替え場所、飲料水、食料品、水道・充電設備などもほとんどの店舗で提供可能となっている。また、災害時にはシビックフォースの救援物資を在宅避難者や車中避難者らに供給する拠点として駐車場を提供する。

シビックフォースは大規模災害に対して企業、NPO、行政などと連携し、迅速で効果的な支援を実現しようとする。24年1月の能登半島地震でも行方不明者の捜索・救助、企業と連携した物資配布などの支援を展開している。

協定締結式は県庁知事室で行われ、岸本周平知事が「和遊協の災害への取り組みを県としても紹介したい。災害支援のノウハウがあるシビックフォースの協力は大変心強い」と感謝。同組合の金貴如理事長は「被災された方々の困難な生活の緩和に役立つことができれば」とし、シビックフォースの根木佳織代表理事は「地域のパチンコ店の駐車場を利用して災害時に物資配布する取り組みは国内で初めてで、今回の協定を和歌山モデルとして全国に展開していきたい」と話した。

県、県遊技業協同組合、公益社団法人シビックフォースの3者が24日、災害支援等の協力に関する協定を締

結した。南海トラフ巨大地震などの災害発生時に、同組合加盟のパチンコ店等の広い駐車場を活用して、シビックフォースが調達した支援物資を避難者に提供する。

県遊技業協同組合は組合員数27法人で県内55店舗を経営。05年には県との間で災害時の2者協定を締結し一時的な避難場所や消防援助隊の活動拠点などとして駐車場を提供することになっていたが、今回、2者間の協定をバージョンアップして再締結したうえで、3者間での協定も結んだ。組合加盟店のうち43店舗が災害時支援に賛同しており、駐車場は計1万5050台が利用